

廃棄物対策審議会議事録

会議名	平成29年度第3回廃棄物対策審議会
日時	平成29年11月22日(水) 13時30分～15時30分
場所	リサイクルプラザ・プラザ館2階 研修室3
出席委員	稲葉委員、恵良委員、高橋委員、鈴木委員、三木委員、春田委員 龍田委員、中村委員、藤田委員
欠席委員	樋口委員、秋山委員、村越委員、橋本委員
会長	稲葉委員
事務局	田中環境部長、染谷環境部次長、糸井クリーンセンター所長、佐々木副所長、金子副所長、鈴木副所長、石田収集・リサイクル係長、村山管理計画係長、宮崎副主査、片浦副主査、横井主任主事
コンサルタント	株式会社環境技術研究所 石川管理技術者、栗原主任研究員、阪根技師
傍聴人	0人
議題	1 流山市一般廃棄物処理基本計画(案)について (1) 減量目標について (2) 具体的施策「資源化の推進」について 2 その他
配付資料	・平成29年度「第3回流山市廃棄物対策審議会」次第 ・席次表 ・資料1 一般廃棄物処理基本計画作業イメージ(参考) ・資料2 減量目標について(案) ・資料3 目標実現のための施策(参考) ・資料4 具体的施策「資源化の推進」(案) ・資料5 審議会議事録(平成29年7月26日開催)
議事要旨	別紙のとおり

議事要旨

<ul style="list-style-type: none"> ・開会（13時30分） ・会長あいさつ ・議題 <ol style="list-style-type: none"> 1 流山市一般廃棄物処理基本計画（案）について <ol style="list-style-type: none"> （1）減量目標について （2）具体的施策「資源化の推進」について 2 その他 ・閉会（15時30分） 	
佐々木副所長	<p>定刻となりましたので、ただいまから平成29年度「第2回流山市廃棄物対策審議会」を開会いたします。</p> <p>本日の審議会の傍聴人の届け出がないことを、ご報告します。また、今回もコンサルタントに出席をいただいておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
佐々木副所長	まず初めに稲葉会長からご挨拶をお願い申し上げます。
稲葉会長	～挨拶～
佐々木副所長	<p>～配付資料確認～</p> <p>それでは、これより本日の議事に入ります。</p> <p>ここからの進行は稲葉会長にお願いします。</p>
稲葉会長	<p>本日の出席委員は9名です。</p> <p>従いまして、「流山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則」第4条第2項の規定に基づき、定足数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、議事に入りますが、まず「（1）減量目標について」事務局より説明願います。</p>
村山係長	～第2回審議会（7月26日開催）のおさらい～
コンサルタント	～（1）減量目標について説明～
春田委員	資料3の4ページ「図5：ごみ発生量の将来予測（現状の施策を継続した場合）」のごみ発生量の算出根拠を教えてください。
コンサルタント	<p>現・計画と同様に、過去のトレンドを基にして「人口が増えてもごみの総量を増やさない」を前提に算出しています。</p> <p>また、過去のトレンドは「清掃のあらまし」の数値を用いています。</p>
稲葉会長	トレンドに使用している過去の実績は、平成何年度から何年度ですか。
コンサルタント	平成24年度から平成28年度の5年分の実績を基に算出しています。基準は、平成28年度としています。
三木委員	<p>私たちの感覚からすると、人口が増えても1人当たりのごみ量を減らして、単純にごみの総量を増やさないようにするという説明だけでは納得いかない部分があります。</p> <p>例えば、最終処分場の残容量を考慮した数値とか、焼却炉の規模的にこれ以上焼却できない等の理由で減らす必要があるなら、そこに目標値を設定して説明してもらえれば理解できます。</p> <p>なぜ、平成28年度を基準にする必要があるのですか。</p>
コンサルタント	一般廃棄物処理基本計画の策定において、基準年度を設けています。現段階

	<p>では、平成28年度が最新の実績であり、その数値から「人口が増えてもごみの総量を増やさない」を前提にごみ発生量等の予測を算出しています。</p> <p>焼却炉の話で申し上げますと、流山市は3炉ありますが、炉を安定稼働させるため常時2炉運転を行い、1炉はメンテナンスを行っています。これ以上ごみ量が増えることで常時3炉運転となってしまうことは非常に厳しくなることは確かです。</p>
三木委員	<p>今の説明がいただけると一般の方にも理解がしやすくなると思います。</p> <p>資料3の4ページ「図6：1人1日当たりのごみ発生量の目標」で、黄色の丸（ごみ発生量（予測結果））が、なぜ減っていくのかがわかりません。</p>
コンサルタント	<p>ごみ発生量の総量は増やさないが、人口は増えていくので、総量を人口で割れば減っていきます。</p>
稲葉会長	<p>黄色の丸（ごみ発生量（予測結果））と赤色の線（ごみ発生量（施策強化後））のそれぞれの図を作成し、順番を変えた方が理解しやすいと思います。</p>
事務局	<p>訂正します。</p>
稲葉会長	<p>それでは次の議題「（2）具体的施策「資源化の推進」について事務局より説明願います。</p>
コンサルタント	<p>～（2）具体的施策「資源化の推進」について説明～</p>
鈴木委員	<p>集団回収を行う団体への報奨金、奨励金制度の見直しについて、以前から検討していますとの話でしたが、一度に他市と同程度にするのですか。段階的に移行するのですか。</p>
糸井所長	<p>報奨金、奨励金の見直しについては、他市とのバランスもあることから検討のうえ、慎重に行いたいと考えます。</p>
高橋委員	<p>「分別排出の徹底」で、家庭から出る燃やすごみの40%は紙ごみということですが、他はどんなものがありますか。</p> <p>また、その紙ごみのうち7%を目標に資源化するとのことですが、7%という数字はどこから出たのですか。</p>
金子副所長	<p>燃やすごみの組成分析を毎月行っています。紙ごみのほかには食品残さや厨芥類、中にはプラ系や瀬戸物なども入っていることがあります。</p>
コンサルタント	<p>捕捉しますと「清掃のあらまし」のP.26に可燃ごみ分析の分析結果を記載しており、全部で10種類に分類されています。</p> <p>なお、資源化する7%の目標については少しの意識の違いで達成できる目標です。あまりに高すぎる目標を掲げても現実味に欠けるため、経験的に可能であると判断した数値目標として7%と記載しました。</p>
藤田委員	<p>「3R推進の取り組み」について、フリーマーケットの実態を教えてください。そういったイベントは、市が主体でやっているのですか。</p> <p>また、廃食油を使った石鹸作りについては私自身もだいぶ昔にやりましたが、今はどうなのでしょう。実態を教えてください。</p>
石田係長	<p>市が主催しているフリーマーケットは、年4回実施しています。民間が主催で開催されているフリーマーケットについては、ホームページや広報等に案内を載せる等支援を行っています。</p> <p>また、廃食油の石けん化については、クリーンセンターで行う講座として三木委員に行っていただいております。</p>

三木委員	<p>実際、石けんを作って市民まつりで配布していたことがあるのですが、現在は石けん作りに参加する人数が減ってしまっている状況です。以前は、幼稚園や小学校で廃食油の石けん化をしていたので、そこから親や地域の人へと広がっていましたが、今はやってる人が少なくなっており、そういった活動ができず、なかなか広まりません。</p>
藤田委員	<p>廃食油からガソリン（バイオマス燃料）を作ることもできます。このような再使用（リユース）の方法があることを知らない人は多くいると思います。</p>
稲葉会長	<p>各団体が行う活動を、より広くPRしていただければと思います。</p>
恵良委員	<p>バイオマス資源について、剪定枝についてしか資料4には記載されていません。北九州市等他自治体では、生ごみの資源化が非常に進んでいるところもあるので、ぜひ研究していただきたい。</p>
稲葉会長	<p>「発生抑制の推進」のところに生ごみの資源化について記載がありますが、分かれて項目が入ってしまっているのもそのあたりは整理していただけたらと思います。場合によっては再掲という形で両方に載せてもいいのではないのでしょうか。</p>
龍田委員	<p>家庭から出る生ごみについてはコンポストに対する補助金があると広まるのではないですか。</p>
恵良委員	<p>過去にありましたが消費電力も多いので設置する人が少ないと思います。</p>
糸井所長	<p>コンポストに対する補助金は、平成23年度までであったのですが、その後廃止となりました。広い土地のある家であれば、庭や畑もあるので生ごみを堆肥化する方もいましたが、庭や畑がない家には普及が難しいかもしれません。</p>
稲葉会長	<p>コンポストに対する補助金とは別に、剪定枝に限らず、バイオマス資源について検討をしてみても良いと思います。</p>
春田委員	<p>「リサイクル館に搬入された廃プラスチックの再資源化」については、現在はどのような状況にありますか。</p>
糸井所長	<p>年間約8,000tの廃プラスチックが運ばれ、そのうちの約800tを「容器包装リサイクル協会」に運ばれています。現状としては、有効利用できていない廃プラスチックもあるので、今後は廃プラスチックの推進に対し、技術的な検討を進めていく予定です。</p>
春田委員	<p>廃プラスチックをサーマルリサイクル（ごみ発電）として焼却してしまいがちですが、それについてはどうですか。</p>
コンサルタント	<p>サーマルリサイクルよりも、今後は焼却をせずに廃プラスチックを再利用していく方針で検討しております。</p>
三木委員	<p>容リプラとその他プラの分別はどうなっていますか。容リプラを出しても汚くて使えないことも多々あると思うのですが、その点について市で指導は行っていますか。</p>
糸井所長	<p>「家庭ごみの正しい分け方・出し方」に納豆やシャンプー、マヨネーズ等の容器は軽くすすぐよう記載がしてあります。排出された容リプラについて、リサイクル館で良いものを回収するという形式をとっています。</p>
龍田委員	<p>流山市は人口が増えている市でもありますので、転入届を提出しに来た方々に対して、もっと分別方法をPRしてもらいたい。</p>

石田係長	<p>転入してきた方々に対して、分け方・出し方パンフレットと地区ごとの分別カレンダーを必ず配布するようにしています。また、集合住宅も多いですが、出し方が乱雑な場合は自治会の方が訪問して指導している事例もあります。</p>
三木委員	<p>「紙ごみ」のリサイクルについては、集団回収で自治会が行っているのので、自治会に入っていない人は燃えるごみとして搬出しているのではないのでしょうか。</p> <p>資源ごみとして回収された「紙ごみ」がどのように再利用されているのかアピールできれば、協力を得やすくなると思います。</p>
藤田委員	<p>毎年5月頃に自治会に向けたリサイクルの説明会が行われますが、その際に、回収されたリサイクルごみがどのように再利用されているか説明してもらえると、説明会に参加した人が自治会の総会等で話ができるのではないのでしょうか。</p>
佐々木副所長	<p>自治会に入っていない人のために、市内5箇所に拠点回収をする場所を設置しています。</p> <p>情報提供については、場を設けられるよう検討します。</p>
稲葉会長	<p>(2) 具体的施策「資源化の推進」(案)について、今回出た意見を取り入れることとしますが、概ね了承を得られたと思います。</p> <p>なお、新たに追加したい施策や提案などがございましたら次回お聞きしたいと思います。</p> <p>次に、議題の2「その他」についてですが、何かありますか。</p>
春田委員	<p>これからの進め方になりますが、今日は「B. 資源化の推進」について審議を行いました。基本方針の「A. 発生抑制の推進」、「C. 適正処理の実施」、「D. 最終処分量の削減」、「E. 地球温暖化防止への配慮」、「F. 緊急時における安心・安全な処理体制の確保」についてはどうなりますか。</p>
村山係長	<p>次回、平成30年1月と平成30年4月の審議会で審議を行い、平成30年7月下旬頃で答申をしていただけたらと思います。</p>
春田委員	<p>資源ごみを除いた家庭ごみを目標値として算出、設定してあるのは、国の方針としても合っているのので賛成します。しかし、燃やすごみについても減らしていかなければならないことから、焼却量についても目標値に入れるべきではないのでしょうか。</p>
コンサルタント	<p>ごみ質の管理等で焼却量は変わってくることもあるので目標値としての記載は難しいと思います。</p>
稲葉会長	<p>燃やすごみについて、量はもちろんですが、質もかなり大事です。さらにそのハンドリングや処理の方法によっても大きく変わってきますので、量だけでなく質や処理方法も要素になりますので、そう単純にはいかない部分があります。ただ、今後、目標値として入れられるかどうかは検討しなければいけないと思います。</p>
高橋委員	<p>ごみの組成分析を資料として提供していただけないでしょうか。</p>
事務局	<p>次回用意いたします。</p>
稲葉会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
佐々木副所長	<p>次回の審議会につきましては、平成30年1月頃を予定しています。本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。</p>

